

.....

うきたむ考古通信

.....

2017年6・8月合併号

■発行者	うきたむ考古の会
事務局	山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館 内
	〒992-0302 山形県東置賜郡高畠町安久津2117
	電話0238-52-2585 Fax 0238-52-4665

考古の会事業報告

♥総会

●5月7日（日）に考古の会の定例総会がありました。あいにく、風雨が強く大変な1日でしたが20名弱の出席者があり、佐藤前館長が座長となって審議が進められました。協議では事務局から平成28年度の事業、決算の説明があり、佐藤監事から監査報告があり、質疑を経て承認されました。引き続き役員改選、29年度の事業・予算の審議にうつり、こちらも原案どおり満場一致で承認されました。新役員の方々とともに、誠実に運営していきたいと思えます。

●総会后、(公財)山形県埋蔵文化財センターから2015、2016年度に震災復興調査のため公益財団法人福島県文化振興事業団に出向された植松暁彦氏による「福島県の復興調査と遺跡」と題する講演がありました。発掘作業で使用する道具の相違や、また、実測図の作成はすべて調査員の仕事であることなど、彼我の調査方法に違いがあること、福島の浜通りといえ、やはり「製鉄遺跡」で、出向の終わった現在でも古代の製鉄の復元に取り組んでいること等、生き生きと話していただきました。そして、各時代ごとの福島と山形の違いについても触れていただきました。

考古の会共催事業報告

みる・きく・ふれる遺跡の旅22 「北茨城をめぐる旅」

7月1日(土)・2日(日)開催

●今年の遺跡の旅は茨城県北部を瓦吹堅先生から案内していただく旅となりました。今年度は山交観光の下請けの赤湯観光の中型バスでの旅となりました。5時30分山形駅発、山形県庁、資料館、高畠駅を經由して、国道13号、東北自動車道、磐越自動車道、常磐自動車道を經由して、瓦吹先生のご自宅に近い関本パーキングエリアに予定より少し遅れて9時50分前に到着。先生をお乗せして茨城県立歴史館に向かいました。歴史館では担当の方から概要を説明していただいた後、各自の興味のあるところを中心に自由に見学しました。それにしても、資料の多いこと。見学時間を少し延ばして昼食会場の梵珠庵へ。昼食後は

雨の中偕楽園へ。公園の中を一回りして、次は弘道館へ。建物と中の展示品を見学し、大日本史も見ることができました。また、丁度「書」の練習中で大勢の方が大作に挑んでいました。弘道館見学後、有志で水戸城も見学しました。その後、大串貝塚（水戸市埋蔵文化財センター）に向かいました。展示品を見て「ダイダラボウ」の胎内にも入りました。その後、やや離れた場所にある貝塚の露出展示を見学しました。その道の途中で、多彩なアジサイが、目を楽しませてくれました。さらに、遺跡公園の各施設を見て回りました。宿舎は大洗の民宿「浜野屋」、おいしい料理が評判だけあって、新鮮な海の幸に舌鼓を打ちながら、おいしいお酒を頂きました。

●二日目は、昨日来の雨も上がり、晴れた暑い一日となりました。最初はひたちなか市の史跡馬渡埴輪製作遺跡。植え込みで表現された各種遺構を見学しました。

次はひたちなか市埋蔵文化財調査センター。鈴木所長さんの案内解説を受け、旧石器時代から歴史時代までほぼ連続する大量の資料に圧倒されました。途中、史跡虎塚古墳と県指定史跡の十五郎穴横穴群の現地見学を含み約2時間の滞在にもかかわらず、見切れない、虎塚古墳壁画公開時に再来すると言う声も聞かれました。十五郎穴横穴群では横穴の中に入り込んで瞑想する人も現れました。ひたちなかを後にして、常陸大宮市への途中の「三亀」で刺身とトンカツの付いたボリュームのある昼食をとり、常陸大宮市歴史民俗資料館大宮館のはずでしたが、通り過ぎておみやげを買うため新しくできた「常陸大宮道の駅かわプラザ」へ。

到着したら、山形県出身の工藤あやのの歌謡ショーが始まり、聞き入りました。私たちが山形から来たと分かると、大いに盛り上がり、おみやげを買い終わってバスが立つ際には、大きく手を振ってくれました。常陸大宮市歴史民俗資料館大宮館には予定より遅れて到着となりましたが、担当の方はいやな顔を見せず、案内してくださいました。今年3月に重要文化財に指定され、6月には史跡指定の答申があった弥生時代の再葬墓群から出土した泉坂下遺跡の土器やパネルで調査の成果を見学しました。77センチを超える人面付き壺形土器（いずみちゃん）は圧巻でした。

最後は茨城県埋蔵文化財センターの展示品と教育財団整理センターの整理室を川津、江幡氏の案内で見学しました。今回の旅は行程も含め瓦吹堅先生に大変お世話になりました。皆、来年の再会をお願いし、先生とお別れし、帰途につきました。その後、瓦吹先生からは「ただ者ならぬ方々の多いきたむのご一行様」ですが、来年も案内して下さるとのお便りを頂きました。

館事業報告

♥「赤ちゃん手形をつくろう」記録更新

●恒例となったゴールデンウイークの「赤ちゃんの手形をつくろう」を4月29・30日、5月3～7日の7日間に渡って開催しました。29日122個、30日159個、3日209個、4日214個、5日206個、6日106個、7日113個で合計1,129個となり、去年の1,000を超え、これまでの記録を更新しました。

今年も手形とりの様子や手形の写真をほぼ全点毎日ホームページに掲載するとともに、会場にも前日までの写真をプリントして貼り付けました。参加者の方で画像データをご希望の方にはメールで送信するサービスを行いましたが、多くの方々から要望があり、画像データを送らせていただいています。

- 手形は当館で自然乾燥した後に、陶芸同好会の後藤代表の手によって「創造の館」の電気窯で丁寧に焼成されました。確認、袋詰めの上、8月1日からお渡ししています。
- 準備段階、そして、期間中にお手伝い頂きました会員の皆様に、この場をお借りして感謝申し上げます。

♥春の遺跡めぐり

- 6月4日（日）に福島県伊達市・桑折町の史跡や資料館を巡る「春の遺跡めぐり」が行われました。今回も町のマイクロバスでの旅行となりました。

高畠からの参加者 27 名、福島県内の参加者 2 名、案内してくださる講師の先生 1 名の総勢 30 名での遺跡めぐりとなりました。

考古資料館前を 7 時に出発し高畠駅を經由して、国道 113 号線、国道 4 号線を經由して道の駅国見で講師の今野先生、福島県勢と合流しました。途中、道すがら霊山の山並みを遠望しながら、説明を受け、保原歴史文化資料館に到着。高橋信一氏の案内で重要文化財亀岡家住宅を見学しました。一通りの館内説明を受けた後、座敷内で史跡・名勝「霊山」のこれまでの発掘調査の成果について今野先生にパワーポイントの画像で説明していただきました。その後、本日のメインである梁川城及びその周辺の散策に入りました。上杉時代と考えられている三の丸の馬出、三の丸土塁、水堀を見学した後、梁川城跡東辺堀の南端部(金沢堀)を見せていただきました。その後、本丸の庭園のある場所で梁川城の変遷過程の説明をしていただきました。梁川城の後は伊達家の守り神であった梁川八幡神社へ。ここは、政宗と愛姫の出会いの場所とか？

その後、昼食会場へ。農家レストランの美味しい料理を頂きました。食後は、予定になかったが語り部による昔話を聞くことに……。 「鶴の恩返し」の変形バージョンで、鶴ならぬ鷺に、詐欺にあった話でした。

昼食会場を後にして、桑折町の旧伊達郡役所へ。ちょうど、西山城の展覧会が開かれていました。東日本大震災の被害から修復された建物の説明を受けた後、西山城の調査成果をじっくりと見学しました。そして、満勝寺跡へ。伊達家初代朝宗の墓等を見学しました。予定ではこの見学で今回の遺跡めぐりが終了することになっていましたが、急遽、阿津賀志山防塁を追加することになり、国見町へ。中尊寺ハスの池を横目で見ながら整備なった防塁へ。二重の堀跡と三重の土塁がよく観察されました。

道の駅国見で思い思いのおみやげを買った後、今野先生、福島県勢とお別れし、羽州街道で高畠に向かいました。

各見学場所での今野先生の丁寧な説明により、よく理解できた 2017 春の遺跡めぐりでした。改めて、今野先生に感謝申し上げます。

♥勾玉・弓矢・石器をつくろう

- 5月20日に行われました「勾玉・弓矢・石器を作ろう」には104名の参加がありました。昨年より、参加者を大きく増やしました。

♥ガラス玉・編布をつくろう

- 6月17日に開催された「ガラス玉を作ろう」には、親子連れや、カップルなど21人の

参加がありました。

また、「編布を作ろう」は残念ながら2人の参加にとどまりました。

♥古代風ブレスレットをつくろう

6月24日開催の「古代風ブレスレットを作ろう」は22人の参加がありました。

🎓考古学入門講座Ⅲが終了しました

●平成29年7月9日／16日／23日（日）13：30～16：00に3回にわたって開催し、29日（土）には補講を開催しました。その内容は以下のとおりでした。

〈第1回〉7月9日（日）

30 都城・城柵・官衙 31 集落 受講者数：21名

〈第2回〉7月16日（日）

32 生業・生産 農業（条里制） 33 寺院・社寺 受講者数：21名

〈第3回〉7月23日（日）

34 中世城館跡（近世城郭含む） 35 中・近世の陶磁器・木製品などの生活用具
受講者数：18名

の予定でしたが、第1回は30でほぼ終了し、第2回は32の生業・生産の須恵器窯業の前半まで、第3回は須恵器操業の後半から33までとなり、34・35に触れることができなかったため、下記のとおり、補講を実施しました。

〈補講〉7月23日（日）

34 中世城館跡（近世城郭含む） 35 中・近世の陶磁器・木製品などの生活用具
受講者数：13名

この結果、今年度の入門講座Ⅲの受講者数は73名となり、延べ48名だった昨年より昨年より、大幅に増えました。

入門講座は今年度で終わりますが、来年度以降の夏の講座については、皆様の意見もお伺いしながら、決めていきたいと思っております。

展覧会の案内

👁️特別テーマ展

「くらべてみよう今と昔～台所編～」

特別テーマ展は、これまで公益財団法人山形県埋蔵文化財センターから企画を含めての全面的なご協力を頂いて開催してきました。

7回目となった今年度は、はじめて本館独自で企画した展示となります。「くらべてみよう今と昔～台所編～」として、「食」にかかわる資料を展示することといたしました。

命をつなぐ「食」の追求は、人類の長い歴史の中でも最も大きなテーマでした。山形県内の旧石器時代から明治・大正時代までの遺跡から発掘調査で出土した「食料加工」に使われた道具類や、昭和・平成の台所にある道具類を参考資料も含めて186点を展示しています。

旧石器時代から現代までの、台所用具に思いを馳せていただければ幸いです。なお、展示期間は6月10日から9月10日までとなります。

👁 第25回企画展「木と生きる～弥生・古墳時代の木製品～」

現在、資料の借用や図録原稿作成などに着手し、開館時には図録が完成できるよう鋭意努力しています。

展示期間は9月16（土）から12月3日（日）となります。

なお、弥生時代の木製品は山形県にはないので、仙台市からお借りすることになっています。乞う、ご期待。

館主催事業の案内

♥ 勾玉・弓矢・石器をつくろう

5月21日に続き、今年2回目となる体験学習を夏休み期間中である8月5日（土）に開催します。

♥ スクールオブジョウモン

夏休みの1日を縄文時代人になって様々な体験をしようという企画で昨年に引き続き開催します。体験メニューは昨年とほぼ同じ内容です。開講式に続いて「石器づくり実演」、「弓矢をうって獲物をとろう」、「石器を使っていろいろなものを切ってみよう」、「火をおこそう、縄文バーベキュー」、「ドッキーをつくろう」、「今日のおさらい」、閉講式と丸1日“縄文”に浸っていただきたいと考えています。

「勾玉・弓矢・石器を作ろう」とともに、お孫さん等に、声をかけていただきますようお願いいたします。

お詫び

本来なら、6月に発行すべきところ、出せないまま時期が過ぎてしまいました。誠に申し訳ございませんが、8月号との合併号とさせて頂きました。

東北情報館



特別テーマ展 『くらべてみよう今と昔—台所編—』

入館料 一般／200円 学生／100円 高校生以下／無料

6月10日～9月10日 うきたむ風土記の丘考古資料館 TEL: 0238-52-2585



企画展 『古代のまじない・祈りと秋田城』

入館料 一般／200円 高校生以下／無料

7月22日～8月23日 秋田市立秋田城跡歴史博物館 TEL: 018-845-1837



『発掘された日本列島 2017』

入館料 一般／300円 高・大学生／150円 中・小学生／50円

8月5日～9月18日 八戸市埋蔵文化財センター是川縄文館 TEL: 0178-38-9511



特別企画展 『いにしえの木林森』

入館料 一般／460円 高校生／230円 小・中学生／110円

7月21日～9月24日 地底の森ミュージアム TEL: 022-246-9153



企画展 『編む・組む・削る—植物利用の技術史—』

入館料 無料 6月24日～8月27日

福島県文化センター白河館 まほろん TEL: 0248-21-1075



企画展 『遮光器土偶の世界』

入館料 一般／310円 大学生／140円 高校生以下／無料

6月3日～8月20日 岩手県立博物館 TEL: 019-661-2831